

にじのへやだより

令和7年7月発行 (vol.2)

病児保育室にじのへや
蕨市病児・病後児保育事業

梅雨の影響でまだまだ不安定な天気が続いていますが、少しずつ暑くなる日々が夏の訪れを感じさせてくれます。

今年はA群溶血性レンサ球菌(溶連菌)や伝染性紅斑(りんご病)、水痘(水ぼうそう)、流行性耳下腺炎(おたふく風邪)、百日咳といった乳児期に予防接種が必要な感染症等が流行してきています。罹患すると重症化するリスクがありますので、母子手帳を確認しながら予防接種を受けることをお勧めいたします。また、予防接種をしていたとしても感染する可能性は0ではないため、手洗い・うがい・消毒を習慣化し、感染予防に努めましょう。

病児保育室にじのへやでも、お子さま・保護者の皆様に安心してご利用いただけるよう、施設内を清潔に保ち、玩具等も丁寧に消毒を行っております。これからも感染対策を徹底してまいりますので、どうぞよろしくお願い致します。



5月
利用者数

6月
利用者数

5月〈利用内訳(年齢別)〉39(名) 登録者数15(名)

0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	学童
4	11	6	9	5	3	0	1

6月〈利用内訳(年齢別)〉34(名) 登録者数17(名)

0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	学童
4	11	5	7	4	0	1	2

利用児童の疾患

- | | | | |
|----------|-----|-----------------|----|
| 1、上気道炎 | 43名 | 8、溶連菌 | 2名 |
| 2、胃腸炎 | 7名 | 9、扁桃炎 | 1名 |
| 3、気管支炎 | 6名 | 10、リンパ節炎 | 1名 |
| 4、副鼻腔炎 | 3名 | 11、咽頭炎 | 1名 |
| 5、喘息 | 2名 | 12、中耳炎 | 1名 |
| 6、風邪症候群 | 2名 | 13、流行性角結膜炎 | 1名 |
| 7、RSウイルス | 2名 | 14、ヒトメタニューモウイルス | 1名 |

5月、6月は、様々な病名のお子さまが多くご利用されていました。お子さまの体調に合わせて水分補給を行い、こまめに検温をしたりと急な体調の変化に気を付けながら十分に休息をとり、安静に一日を過ごせるようにしております。

体調が良い時は、施設の玩具やご家庭から持参した大好きな玩具で保育者と一緒に遊んだり、お絵描きやシール貼り等したりして楽しく過ごしています。

また、今月は季節に合わせて七夕の吊るし飾りの製作を行いました。七夕伝説は中国伝承の風習ですので、中国の幸運や運気を上げるとされる吊るし飾りをモチーフにした製作にしてみました。あらかじめ中央に穴の開いた四角い画用紙にキラキラのシールを貼ってもらい、天の川や星空を表現しました。中央部分はカラフルなセロハンで保育者と一緒にハサミで切り、オーロラを再現！織姫と彦星の着物は折り紙で折り、最後に目と口のシールを貼ってもらい、とってもきれいでかわいい七夕の吊るし飾りに仕上がりました！

保育の様子☆

お家から持ってきたお弁当を体調に合わせて食べられるところまでゆっくり食べています！



熱が高く、体調が優れない場合はコットに横になって午前睡をしたり、長めに午睡を取ったりして体を休め、安静に過ごしています。

折り紙で織姫さまと彦星さまの着物を綺麗に折れました！



吊るし飾りの周りにはキラキラのシールを貼り、中央はセロハンでオーロラを再現しました！織姫と彦星の着物を折り紙で折り、目や口のシールを貼ってかわいい七夕の吊るし飾りが出来ました！



熱中症に注意しましょう☆



今年は6月から猛暑が続いており、記録的な早さで梅雨明けすることが予想されています。そんな中、注意しなければならないのが「熱中症」です。

熱中症とは

高温多湿な環境下で、発汗による体温調節等がうまく働かなくなり、体内に熱がこもった状態をいいます。屋外だけでなく、室内で何もしていないときでも発症します。熱中症は、炎天下に長時間いたり、真夏の暑い中運動をした時になるものと思いがちですが、体が暑さにまだ慣れていない今のような時期にかかりやすい病気でもあります。

子どもは熱中症になりやすい

熱中症患者のおよそ半数は、65歳以上の高齢者です。一方で、体温調節機能が十分に発達しておらず、体も小さいため周囲の環境の影響を受けやすい乳幼児も、熱中症にかかりやすいです。乳幼児は、暑さや体の不調を、まだ自分の言葉で十分に訴えることができません。また、服を脱いだり、水分補給をするなどの熱中症予防の行動を自分でとることも難しいです。汗や体温、顔色や泣き方など、赤ちゃん・子どもの様子を、まわりの大人が十分に気にかけて、対応する必要があります。

熱中症の症状

めまい 立ちくらみ
生あくび 大量の発汗

筋肉痛
こむら返り

頭痛 嘔吐 倦怠感

判断力の低下
集中力の低下



症状が進むと…



子どもの熱中症を予防するには

1. 水分を多めにとりましょう

子どもは新陳代謝が活発なため、汗や尿として体から出ていく水分が多く、脱水を起こしやすいです。たとえのどの渴きを訴えなくても、こまめな水分補給を心がけましょう。



2. 熱や日差しから守りましょう

乳幼児は自律神経の働きが未熟で、発汗等による体温調節がうまくできません。熱のこもりにくい通気性のよい素材や薄い色(太陽光を吸収しにくい)の衣服を着せたり、帽子をかぶらせましょう。

3. 地面からの熱に気をつけましょう

身長が低い子どもは、地面からの熱の影響を受けやすく、大人よりも高温の環境にさらされています。大人が暑いと感じている時、子どもはさらに高温の環境下にいることになります。例えば大人の顔の高さで32度の時、子どもの顔の高さでは35度の感覚です。(「子どもの環境は大人より7度高くなる」とする実験結果もあります)子どもの高さの気温や湿度を気かけ、ベビーカーに乗せる場合はシートに保冷剤を入れたり、小型扇風機を取り付けるなどの工夫をしましょう。

4. 暑い環境に置き去りにしないようにしましょう

乳幼児は暑くても自分の力で移動することができないので、「寝ているから」「ちょっとの時間だから」と放置することは、大変危険です。特に、車内に置き去りにすることは絶対にやめましょう。

5. 室内遊びも油断しないようにしましょう

日差しがない屋内なら大丈夫だろうと油断しがちですが、屋外と同じ対策を意識し、こまめな水分補給をこころがけましょう。

6. 外遊びに夢中になりすぎないようにしましょう

遊びに夢中になると、のどの渇きや気分の悪さなどの熱中症のサインに気づくのが遅くなります。子どもや、特に乳幼児が遊びに夢中な場合には、大人が見守り休憩や水分補給をすすめましょう。



参考URL: こども家庭庁「みんなで見守り」こどもの熱中症を防ぎましょう!

<https://www.cfa.go.jp/policies/child-safety-actions/cases/netchusho>

日本気象協会推進「熱中症ゼロへ」<https://www.netsuzero.jp/#learning>